

人生も麻雀も同じ 失敗も成功も すべて想定内

プロ麻雀士

小林 剛さん KOBAYASHI GOU

東京都八王子市出身。東京都立八王子東高校卒業。東京理科大学理学部数学科中退。20歳にプロ麻雀士となる。麻將連合所属。将王、天鳳名人など数々のタイトルを獲得。MリーグのU-NEXT Piratesにドラフト1位で入団し2019年にはチームを優勝に導いた。



麻雀は確率を予想するゲーム 運やツキとは関係ない

プロ麻雀士という職業があることをご存じだろうか。プロ棋士ではない。プロ麻雀士である。おのれの浅学をひけらかすようで恥ずかしいが、私は麻雀＝賭け事という認識しかなく、プロの競技麻雀という世界があることを知らなかった。小林剛さんに会うまでは。

「最近、街で声をかけられることが増えた」という小林さんは、麻雀界では超有名なスター。対局中の徹底したポーカフェイス（麻雀なのに）ぶりから「麻雀サイボーグ」あるいは「ロボ」の異名を持つ。

小林さん曰く、「麻雀とは確率を予想するゲーム。運やツキとは関係ない」

たとえば、手牌に「白」と「中」の字牌が1つずつあり、どちらかを捨てようと迷った末に、白を捨てたとする。その直後に引いた牌が白だったら、「しまった！ 中を捨てればよかった！」と後悔する人がほとんどだろう。その後、メンタルの調子を崩して対局もがたがたになってしまうというケースも多いのではないだろうか。しかし小林さんによれば、それは全くのナンセンス。

「確率的には次に白を引く可能性は全くの想定内。それなのに後悔したり動揺しても意味が



①



②

小林さんは多くの麻雀ノウハウ本を上梓している。わかりやすいと好評だ。①『コバゴースト 麻雀“早覚え” 点数計算マスタードリル』（ART NEXT、小林剛監修）、②『スーパーデジタル麻雀』（竹書房）



③



④



⑤

③『アガリ率5% アップ何切る』（竹書房）竹内隆之さんと共著、④『麻雀技術の教科書 効率的なアガリ方』⑤『麻雀技術 守備の教科書 振り込まない打ち方』（ともに池田書店）井出洋介さんと共著

ない。麻雀は良い偶然と悪い偶然が起り続けるゲーム。何が起ころうと、その後の判断や行動を変える必要はないのです」

この冷静さが「ロボ」と呼ばれる所以であり、強さの秘密だ。小林さんのプロ麻雀士としての成績は、2002年、26歳の時に野口恭一郎賞で初タイトルを獲得したのを皮切りに、29歳で将王決定戦優勝（その後も3回優勝）、オンライン麻雀の最高峰、天鳳名人戦連覇（2011、2012年）、トッププロが集うRTDリーグで2018に優勝、2019年にMリーグ優勝（U-NEXT Pirates）と華々しい。

プロ麻雀士の毎日とは

プロ麻雀士の生活とはどのようなものなのか。「対局のある日とない日で異なりますね。Mリーグがある日は、昼に起きて、夕方にスタジオに入り夜7時から対局がスタートで1試合か2試合。所属する麻將連合の対局の日は、昼から夜まで、1試合1時間半～2時間の対局を4試合行います」

対局のない日は、麻雀教室で講師を務めたり、雀荘でアマチュアの人と対戦をするのも仕事。「小林プロを動かしてやる」と意気込んで来る人もいます。「麻雀は偶然の繰り返しなので、良い偶然が重なればアマチュアでもプロに勝てることがある。身体能力が高くないと勝てないスポーツと違って、性別も年齢も関係なく対等に戦えるところがおもしろい」と小林さん。

算数が得意でクールな子ども時代

小林さんはどのような経緯でプロ麻雀士になったのか。その片鱗は子どもの頃からあったようだ。「小学生の頃から算数が得意だった」と小林さん。キャラクターとしては目立たずおとなしい子どもだった。今でも忘れられないのは小学校5年生の時のこと。担



柔道部の部員たちと。中学3年の頃。体格は小さいが、人の知らない技を使って不意打ちするという独自路線で戦った。（前列中央が本人）

任の先生がクラス全員を集め、説教をしたことがあった。「あなたたちには情熱がない。みんな何事にももっと一生懸命に取り組みなさい!」。1時間の授業をまるまる使ってようやく話が終わった後、「小林、ちょっと来なさい」と先生。何を言われるかと思ったら、「今のは全部あなたに言ったんだよ」と。「その



高校3年の卒業アルバムより。強く自己主張をしない物静かな性格だった。

くらい、無気力な子どもだった。先生が今の僕を見たらなんと言うか、会ってみたいですね」と小林さん。無表情で淡々と牌を切る、その姿から「ロボ」と言われる対局スタイルの萌芽はこの頃から見られたようだ。

中学生になった小林さん。この時も得意科目は数学。当時はプロレスブームで、格闘技に憧れていた小林さんは柔道部に入部する。他の部員は体格が大きく強い人ばかり。真正面からぶつかっても勝ち目がないと踏んだ小林さんは、力では勝負せず、相手の知らない技を使って勝つという独自路線を歩む。高校生になっても柔道を続け、それなりに勝てるようになっていた。

高校1年で麻雀に出会う

ところが、ここで大きな転機が訪れる。小林さんと麻雀との出会いだ。

「クラスで麻雀が流行っていて、昼休みも放課後も麻雀をやっていました」。麻雀に夢中になり、いつしか柔道部から足が遠のいた。友人たちは中学生の頃から麻雀をしていたので、小林さんは一番弱かった。だからこそ誰よりも真剣に取り組み、高校を卒業する頃には一番強くなっていたという。「この頃から、負けが続いて『今日はツイてない』と言って途中で投げやりになる人がいると、『麻雀って確率のゲームだからツキなんて関係ないのに』と冷めた目で見ていましたね」

大学2年生でプロテスト合格

高校の3年間は麻雀に熱中し、ほとんど勉強をしなかったが、数学は相変わらず得意だった。そこで、受験科目が数学と英語だけだった東京理科大学を受験。理学部数学科に入学する。

入学当初は、真面目に大学に通い、数学研究部というサークルにも所属。「一応キャンパスライフを楽し

もうとしていたのかもしれませんが」。ところが間もなく雀荘に通うようになり、雀荘でアルバイトも始めると、大学には行かなくなってしまった。

大学2年のときに、小林さんは最高位戦日本プロ麻雀協会の奨励会に入会。優秀な成績を残して、2年の終わり、20歳の時にプロテストに合格。1年後に最高位戦と麻将連合が分裂し、小林さんは麻将連合に移籍した。

奨励会に入ってから、小林さんはスーツとネクタイ姿で対局に通っていたが、あるとき駅でばったり姉に会ってしまう。就活と言ってごまかすには無理があり、プロを目指して奨励会に通っていることが家族にばれてしまった。「親は大反対しましたが、プロテストに合格できたので、この道でやっていくと、反対を押し切りました」

地道に対局を重ね頭角を現す

さて、プロになったものの、すぐに収入が得られるわけではない。当時はまだ競技としての麻雀があまり普及していなかった。「対局して優勝すれば賞金をもらえますが、勝てなければ1円にもなりません。しばらくは雀荘でバイトをして、登録料を払って対局させてもらうだけという日々が続きました。周囲からも、それで本当にやっていけるのかと心配されましたね」

しかし、小林さんは少しずつ実績を上げ、注目の若手として目立つ存在になっていった。23歳のときに、モンド麻雀プロリーグというテレビ麻雀対局の最高峰リーグ戦に参戦し、好成績を上げて一躍注目を浴びる。26歳で初めて、メジャータイトルといわれる野口恭一郎賞で優勝。29歳で、所属する麻将連合の最高峰である将王でタイトル獲得。20代では初の快挙となった。

インターネット放送により 徐々に人気上昇



その後、小林さんにとって幸運だったのは、2010年頃から麻雀の対局が、ニコニコ生放送やYouTubeなど、インターネットで生配信されるようになったことだ。実況の面白さもあいまって麻雀人気は高まっていった。

将王の覇者であった小林さんはいろいろな番組に呼ばれるようになり、一気に他団体のプロ麻雀士たちとの交流が広がった。

「2011年に天鳳名人戦がスタートし、さらに競技麻雀の世界が大きく変わった」と小林さん。「天鳳名人戦は、オンライン麻雀『天鳳』で1年を通して行われるリーグ戦。以前は、オンライン麻雀界の麻雀士とプロ麻雀士とは全く別の世界で、互いの存在をちょっと斜に構えて見ていました。ところが、天鳳名人戦ができたおかげで、両者の垣根がなくなった。1年のリーグを戦ってみると、『あいつら強いじゃん』と、お互いに認め合うようになったんです」。これが、競技麻雀のすそ野を広げるきっかけとなる。ちなみに、天鳳名人戦の初代チャンピオンは小林さんだ。翌年には連覇を果たしている。

Mリーグ誕生によって プロ競技麻雀が一気に普及する

そしてもう1つ、麻雀界にとって大きな転機となったのが、2018年、Mリーグの誕生だ。「株式会社サイバーエージェント代表取締役社長の藤田晋さんらが麻雀の競技をプロスポーツとして確立させるためにMリーグを立ち上げました。これによって、麻雀のイメージもプロ麻雀士の地位も向上。麻雀士が職業として成り立つようにするべきだという考えから、Mリーグの選手は年俸も保証されています」。さらにMリーグは「ノーギャンブル宣言」を掲げ、クリーンなイメージが広がった。これによってMリーグには大手企業のスポンサーが付き、現在8チームがリーグ



(左) 初めての決勝戦に臨む。21歳の頃。
(右) 王貞治氏が観戦する横で採譜(対局中の一手、一手の記録を採ること)する小林さん。24歳の頃。



(左) 2019 年、M リーグで優勝し、チームメイトが駆け寄る一瞬。44 歳の頃。(右) 45 歳のとき、4 回目の将王獲得。



戦を戦っている。小林さんは M リーグ開幕の年、U-NEXT Pirates にドラフト 1 位で選ばれた。

M リーグによって、競技麻雀の認知度が高まり、麻雀人口は一気に拡大。人気チームの対局は 300 万人以上の視聴者を集めている。

もはや麻雀は「健全な頭脳ゲーム」に

ここまでがプロ麻雀士小林さんの歩んできた道だが、それは、プロ競技麻雀の歴史ともいえる。かつては大人の男性たちがお金を賭けて遊ぶもの、というイメージだった麻雀のなんという変わりようだろう。若い女性プロ麻雀士も増え、プロ麻雀士は若者の人気の職業の一つとなっている。お金を賭けない雀荘も増え、「健康マージャン」という看板を掲げて高齢者の社交の場になっている雀荘もある。もはや麻雀は、囲碁や将棋と同じように、老若男女が楽しめる健全な頭脳ゲームとして認知されているのだ。

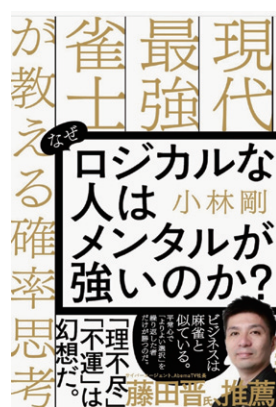
「麻雀は健全で楽しいゲームだということを世の中に広めたい。そのためには試合に勝ち続けたいですし、雀荘でアマチュアと闘うことも大切な活動だと思っています」

何が起こっても全て想定内という人生観

振り返ってみると、麻雀の魅力に取りつかれ、わき

目もふらず麻雀だけに打ち込んできた。そのせいで大学も中退してしまったが「好きな事を続けてきて、多少有名にもなれた。結果的には成功した人生だと言ってもいいのではないのでしょうか」

麻雀から学んだ一番大きなことは、「うまくいかなくても当たり前という考え方。全て確率の範囲＝想定内。悪いことがあっても単に悪い偶然が起こっただけ。未来には何の関係もない、と割り切れるようになったことです」と小林さん。その徹底したロジカルシンキングに注目した編集者のすすめで、昨年、『なぜロジカルな人はメンタルが強いのか？ 現代最強雀士が教える確率思考』(飛鳥新社) という本も出している。実はカラオケでもかなりの実力派だとか。今後も多才ぶりを発揮して、競技麻雀という新しい世界を世に広めてほしい。



近著『なぜロジカルな人はメンタルが強いのか？』(飛鳥新社)。小林さんにとって初めてのビジネス本。

取材を終えて

子どもの頃、正月といえば父が友人を集めてコタツで麻雀というのがお決まりの風景だった。麻雀は見よう見まねで覚えた。きれいな模様の牌を並べることに執着したが、確率論で言えば、その方法で勝つのは難しい。あの時、小林さんの理論を知っていればな……。とりあえず、10 月開幕の M リーグ観戦で、小林さんのロジカル麻雀を学んでみようか。(フリーライター／石井栄子)